

教務部

<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい個別の指導計画が運用開始2年目となる。教育課程ごとに課題は異なるが、評価を起点としたPDCAサイクルが確立しつつある。新学習指導要領の理念に基づくカリキュラム・マネジメントを個別の指導計画の運用を通して具現化できるよう努める。 ・小学部において新学習指導要領の実施が始まり、中学部、高等部においても新学習指導要領の内容を一部踏まえた計画をもとに教育活動を実施する。示された教育内容の改善点の実践とともに、児童生徒の実態に即した評価の在り方を確立するよう努める。 ・学校ホームページは学校評価アンケートの反省を踏まえ、より見やすい構成を検討するとともに、これまで学校行事や校外学習中心だった更新内容を柔軟に捉えなおし、月間の取組や児童生徒の様々な活動についても積極的に更新する。 ・年間200日の授業日数を確保した二期制の年間行事計画を継続する。働き方改革の推進を目指し、会議等の時期を調整することで繁忙期を解消させる。
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1)新しい個別の指導計画の効果的な運用とともに、新学習指導要領に準じた実践と評価の在り方について理解促進を図り、児童生徒の教育活動を充実させる。 (2)ホームページや学校だよりなど、外部への発信をより分かりやすく充実できるよう、内容や方法について改善し実践する。 (3)二期制の年間計画の運営をとおして、更なる働き方改革の推進を図る。
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画の趣旨や有効な運用方法について周知を進め有効なカリキュラム・マネジメントを進めるとともに、新学習指導要領の適切な実践につなげることができるよう各部における実践の状況を把握する。 ・児童生徒の生き生きとした学習活動の様子を発信できるよう各部、各分掌と連携を図る。 ・二期制のメリットを生かしながら効果的に教育活動や会議等が運営できるよう、各部、各分掌と連携を図る。
<p>目標の達成に必要な具体的取組</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1)新しい個別の指導計画の効果的な運用とともに、新学習指導要領に準じた実践を評の在り方、児童生徒の教育活動を充実させる。 <ol style="list-style-type: none"> ①「スタートは評価から」という目標を継続し、教育課程ごとに異なる課題に対応できるよう運用方法の在り方を探る。 ②実際に運用する中で、必要に応じて取組方や様式の見直しを行うなど、改善を図る。 ③個別懇談会で指導計画を基に保護者と共通理解が図れるよう、各会の内容を明確にする。また、期間外でも必要に応じて懇談が行えるよう、自由懇談期間を行事計画に位置付ける。 (2)ホームページや学校だよりなど、外部への発信をより分かりやすく充実できるよう、内容や方法について改善し実践する。 <ol style="list-style-type: none"> ①ホームページの情報更新が適切に行われるよう、行事等の準備段階からホームページへの掲載を予定化する。 ②学校教育の取組を保護者や地域の方々へできるだけ早く発信できるよう、運用しやすいホームページへの見直し行う。 (3)二期制の年間計画の運営をとおして、更なる働き方改革の推進を図る。 <ol style="list-style-type: none"> ①二期制における教育課程及び教育活動の在り方、有効な評価の仕方について他分掌等と連携を図りながら見直しを進める。 ②放課後の働き方について、会議や行事等に関する時期や準備の在り方、内容の精選を行ったりするなど、取組方を見直す。
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい個別の指導計画の効果的な運用とともに、新学習指導要領に準じた実践や評価の在り方、児童生徒の教育活動を充実させることができたか。 ・ホームページや学校だよりなど、外部への発信をより分かりやすく充実できるよう、内容や方法について改善し実践することができたか。 ・二期制の年間計画の運営をとおして、更なる働き方改革の推進を図ることができたか。

取組状況・実践内容等	<p>(1)・年度当初に各部主事と個別の指導計画の内容や書き方について検討し、共通理解を図るとともに、様式について教育課程ごとの特徴に応じ、「年間目標」と「各授業の目標」「手だて」の関係を以下のように見直した。</p> <p>①教育課程ABにおいては、各授業の目標と手だてを設定するのではなく、年間目標に迫るために具体的な配慮事項を挙げるようにした。</p> <p>②教育課程Cにおいては、年間目標に迫るための手だてだけでなく、各授業の中心的な目標や手だても記載できるようにした。</p> <p>・休校期間やコロナ対応等に対する学習保障として、オンライン授業（学習支援）を計画した。</p> <p>(2)・ホームページのトップページに「最近のトピックス」として、行事を中心とした教育活動等の情報を写真付きで掲載した。</p> <p>・ホームページで保護者に臨時休校期間や学校再開、オンライン授業支援等に関する情報を分かりやすく伝えられるよう「保護者様」ページを新設するなど構成を見直した。</p> <p>・新型コロナウィルス関連の情報を中心に、重要な情報についてはトップページにバナーを作成した。</p> <p>・ホームページの情報更新を早く伝えられるよう、重要な情報についてはすぐメールでお知らせするようにした。</p> <p>(3)・臨時休校や長期休業の短縮、行事等の内容修正を踏まえ、会議等の持ち方を再検討した。</p>
評価の視点	評 価
(1)新しい個別の指導計画の効果的な運用とともに、新学習指導要領に準じた実践や評価の在り方、児童生徒の教育活動を充実させることができたか。	A (B) C D
(2)ホームページや学校だよりなど、外部への発信をより分かりやすく充実できるよう、内容や方法について改善し実践することができたか。	A B (C) D
(3)二期制の年間計画の運営をとおして、更なる働き方改革の推進を図ることができたか。	A (B) C D
成果・課題	総 合 評 価
<p>(1)〇個別の指導計画では教育課程の特徴に応じ項目の関連を変更したことで、年間目標が各授業の中でより具体的に考えられるようになった。</p> <p>〇休校期間中だけでなく学校再開後もコロナ対応として授業を減らした在宅訪問生や病気療養のため欠席している児童のために、オンラインでの授業支援を実施することができた。</p> <p>▲指導計画の様式について、Excelを継続仕様したが、バージョンの違いによって体裁が崩れてしまうことがあった。次年度に向け体裁を整えるが、使用環境（PCやExcelのバージョン）の違いにより今後も繰り返すのであればWordへの切り替えを検討する。</p> <p>(2)〇「保護者様」だけでなく、トップページ上段にバナーを作成したことで旬な情報、重要な情報を強調し、アクセスしやすい構成にすることができた。</p> <p>〇「すぐメール」にホームページのリンクを貼るようにしたことで、2つのツールの関連性が高まり、手軽に情報を確認してもらえるようになった。</p> <p>▲ホームページの古い情報の削除や更新ができていないことが多くあった。定期的（1回/月）に削除・更新すべき情報が残っていないかを点検する。</p> <p>(3)〇予定していた行事や会議等の多くが変更、中止となったが、各部、各分掌と連携し、状況に合わせて柔軟に変更することができた。</p> <p>▲感染症対策の視点から大人数での会議を削減もしくは時間短縮するようにはしたが、改善の余地はまだ多く残されている。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<p>・教育課程の特徴に合わせて個別の指導計画の様式変更を行ったことで留意点が多様化してきた。今年度の記載内容をベースに各教育課程に応じたマニュアルを作成する。</p> <p>・より見やすく、学校の様子が伝わるようなホームページにするため、ページ構成や内容を再検討する。</p> <p>・感染症対策を徹底し、行事や会議等についてはもち方を工夫しながら本来の目的を達成できるように計画する。</p>

渉外部

現状及びアンケートの結果分析等	<p>・「研修委員会」「広報・環境委員会」の二つの専門委員会の活動に対し、保護者が前年度よりもさらに自主的・積極的に、また無理なく取り組めるよう支援した。この結果、研修委員の方は地域交流講座での受付・司会等に自主的に取り組む方が増えた。内容の充実を考えたことにより、地域交流講座やPTフォーラム等の参加者も増えた。広報・環境委員の方で学校に来て活動することが難</p>
-----------------	--

	<p>しい方は「しゃべりっちながら」の発行に向けての活動、ベルマークの収集等を家庭で行えるよう支援した。学校に来ることができる方には「しゃべりっちながら」の編集や紙組みを学校で行えるよう支援した。どちらの専門委員会においても保護者同士助け合う姿がみられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「PTAの日」を保護者が自主的に企画・運営できるように支援することができた。PTA会員が主体となって茶話会（交流会）を3回実施することができた。 ・地域との交流活動として「ふれあいの日」「地域交流講座」等を実施し、長良5校のPTA・個人ボランティアの方たちとの交流を図った。 ・PTAふれあいの日実行委員会を何回も開き、新しい企画等が実施できるよう支援できた。保護者一人一人の負担が大きくなるよう工夫したことにより保護者同士の関係が良好な状態で活動を行うことができた。また、学校に来ることができない保護者が家庭で準備できるよう支援したことにより、活動に参加できる保護者が増えた。 ・「ふれあいの日」について、各分掌・各部の役割分担を明確にし、全校体制で取り組むことができた。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>(1)研修委員と広報・環境委員が自主的・積極的にPTA活動に取り組めるよう支援する。</p> <p>(2)「ふれあいの日」等の地域交流活動が、積極的な交流の場となるよう計画・実施する。</p>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・渉外部とPTA役員が連携し、学校職員と保護者の協力体制を確立する。 ・他分掌と連携し、PTA関係行事を実施できるよう協力体制を整える。 ・地域（長良5校PTAや個人ボランティアの方等）と連携し、協力体制を構築する。
目標の達成に必要な具体的取組	<p>(1)研修委員と広報・環境委員が自主的・積極的にPTA活動に取り組めるよう支援する。</p> <p>①各専門委員会の活動を自主的・積極的に、また無理なく計画・実施できるように、各専門委員会の方に以下のように支援していく。研修委員の方には地域交流講座や外部の研修会の意義を説明し、参加することにより児童生徒・保護者にとってプラスになることを周知していく。広報・環境委員の方には家庭の状況に合わせてできるような体制を継続していく。また、「ふれあいの日」や「地域交流講座」等に保護者が見通しをもって参加できるように、他分掌と連携し、保護者を支援していく。</p> <p>②PTA行事や研修会等の内容や保護者が参加する意義について学校職員も理解し、保護者に参加を促すことができるような校内体制を作っていく。</p> <p>(2)「ふれあいの日」等の地域交流活動が、積極的な交流の場となるよう計画・実施する。</p> <p>①PTA会員全員で「ふれあいの日」を運営できるよう支援していく。令和元年度新しい企画をいくつか実施したので、令和元年度の情報を保護者間で引き継げるよう支援したり、令和2年度のふれあいの日実行委員の気持ちを聞き取ったりして、保護者が自主的に取り組めるよう支援する。</p> <p>②「ふれあいの日」等の地域交流活動が、交流の場として、より積極的に取り組める内容を検討し、全校体制で臨めるよう、計画・実施していく。</p>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<p>(1)保護者にPTA活動への参加を促していき、保護者同士が繋がることのできるPTA活動が行えるよう支援していくことができたか。</p> <p>(2)保護者が「ふれあいの日」等のPTA活動の企画・運営を行うにあたって、PTA会員全員が活動しやすいように支援できたか。</p> <p>(3)当校PTA会員と地域の方との交流を深めることができたか。</p>
取組状況・実践内容等	<p>(1)・今年度は新型コロナウイルス感染症拡大抑止のため、例年通りの活動はそれぞれのPTA専門委員会において行うことが難しかった。しかし、安全・安心を第一に今できる活動をPTA役員と一緒に考え、その活動に対し保護者ができるだけ自主的・積極的に取り組めるように支援を工夫した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報・環境委員会では、「しゃべりっちながら」「すまいるながら」の発行に向けての活動、保護者アンケートの集計、ベルマーク収集等を家庭で行った。例年とは異なり、ベルマークを集める期間を決め、その時集まったベルマークを家庭で仕分けたり点数計算したりすることができるよう支援した。 <p>(2)・ふれあいの日や地域交流講座等の中止により、通常地域交流活動を行うことができなかったため、代替活動として研修委員会中心に壁新聞を作成した。長良5校に掲示してもらうことにより当校のPTA活動の様子や児童生徒のこと、病弱特別支援学校について知ってもらうことができた。壁新聞の原稿はPTA会員全員から募集し、研修委員役員がレイアウト等を考え完成させた。</p>
評価の視点	評価
(1)研修委員と広報・環境委員が自主的・積極的にPTA活動に取り組めるよう支援することができたか。	A (B) C D

(2)「ふれあいの日」等の地域交流活動が、積極的な交流の場となるよう計画・実施することができたか。	A ② C D
成果・課題	総合評価
<p>(1)○「ふれあいの日」と年3回行われていた地域交流講座が新型コロナウイルス感染症拡大抑止のため行うことができなかった。その中で代替活動を模索し、壁新聞作りを行うこととなった。壁新聞の原稿はPTA会員全員から募集し、7人の保護者に原稿を書いていた。その原稿をPTA役員が協力してレイアウトし、壁新聞を仕上げることができた。保護者同士助け合う姿がみられた。</p> <p>○PTフォーラムの代替活動として、防災環境部と連携して「しゃべりっちながら」を活用しての家庭での防災意識を高める活動に取り組んだ。保護者が「我が家における防災」について原稿を執筆し協力することで、会員同士の交流を深めることができた。</p> <p>▲「しゃべりっちながら」は、コロナ禍で行事が少なく、連絡も取りづらい状況だったため投稿できる保護者が限られていたが、読むことを楽しみにしている家庭も多いので少しでも参加できるような内容をPTA役員中心に検討できるようにしていく。</p> <p>▲各家庭でベルマークの仕分け、点数計算ができるよう段取りした。来年度からは保護者が段取りの段階から行えるよう、職員が行っていた仕事をPTA役員に円滑に引継ぐことが課題である。今年度の取組を踏まえて、年度当初にベルマーク運動の方針を決め広報・環境委員で実施していけるよう支援していく。</p> <p>(2)○新型コロナウイルス感染症拡大抑止のため、「ふれあいの日」と「地域交流講座」、個人ボランティアによる「日常の授業支援」等の地域交流活動を行えなかったが、壁新聞によって長良5校に当校のPTA活動の様子や児童生徒のこと、病弱特別支援学校について知ってもらうことができた。長良5校の職員からのアンケート結果を来年度の取組の参考にしていきたい。</p> <p>▲地域交流活動を行えない場合の代替活動について、再度PTA役員と一緒に考えていくことが課題である。</p>	A ② C D
来年度に向けた課題と改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度もPTA行事等を行えるか確定できない状況である。代替活動について、今年度の取組の充実を含め、PTA会員同士が交流できるような活動を支援していく。 ・保護者アンケートの結果から多くの保護者が何らかの形でPTA活動に参加したいと思っていることが分かった。現在の保護者のニーズに合わせて、少しでも多くの方が参加できるように安全・安心に配慮しながら、「家庭でできることを増やす」「オンラインで参加する」等の取組をPTA役員と検討していく。

研究研修部

現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・主題研究では、年間学習指導計画の目標を新学習指導要領の育成すべき資質・能力の三つの柱に基づいて設定し、単元（活動）計画・振り返りシートを作成して実践研究を行った。 ・夏季休業中の研修期間の他、年間を通して他分掌と連携して職員の専門性を向上するための職員研修会や、自主的な学習会を計画、実施することができた。しかし、保護者アンケートの「当校の職員は、専門的な知識が豊かで教員としての資質を身に付けている」という項目の評価が昨年度より下がった。より一層、他分掌やコア・ティーチャーと連携して当校の職員に合う研修の実施や外部研修への参加を呼びかけ、職員の専門性の向上に努める必要がある。 ・校外で実施される研修会等の情報を電子掲示板を使って紹介したり、対象と思われる職員に回覧したりすることで周知し、参加を呼びかけた。また、県外の研究会に参加した職員には出張報告をしてもらい、他職員に情報提供することができた。多くの職員が研修会等に参加できるよう、今後も研修案内の方法を工夫していく必要がある。 ・今年度より、専門家支援とICT活用推進の業務が新たに加わった。授業力向上に向けて、効率的に活用できるよう主導的役割を担っていく必要がある。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>(1)新学習指導要領を踏まえた授業づくりを通して、児童生徒の主体的に社会とかかわる力を育てる。</p> <p>(2)職員のニーズに応じた校内研修会の実施や専門家支援の活用、外部研修情報の提供を通して、職員の専門性や実践力の向上を図る。</p> <p>(3)児童生徒の教育環境の整備と職員の授業力向上のため、ICT機器及び教材教具の有効活用を積極的に推進する。</p>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・各学習グループAB、C、D、Eで研究グループを編成し、研究チーフ会において情報の共有、研究の進め方についての共通理解を図りながら、研究を進める。また、各研究グループに連絡係を置

	<p>くために、全校体制で人選の選択を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育及び病弱教育に対する専門性を高めるための研修会や自主学習会を、他分掌やコア・ティーチャー等と連携して計画、実施する。 ・情報機器の活用に対する情報提供と職員研修、技術支援を行うために、ICT活用推進リーダーと情報化推進担当者を中心に業務を進める。
目標の達成に必要な 具体的取組	<p>(1)新学習指導要領を踏まえた授業づくりを通して、児童生徒の主体的に社会とかかわる力を育てる。</p> <p>①各部・類型グループで、対象となる教科等に対して評価の観点を明確にした単元（活動）計画を作成する。それをもとにPDCAサイクルを基盤とした授業改善に取り組む。また、研究授業（事前・事後研究会を含む）や実践交流会を行い、さらなる授業改善に生かす。</p> <p>②研究チーフ会で各研究グループの進捗状況や課題等を把握し、解決策や全体の方向性を共通理解し、全体又は各グループ会に提示していく。</p> <p>③研究チーフは研究グループ会が円滑に進行できるように、主導的役割を果たす。</p> <p>(2)職員のニーズに応じた校内研修会の実施や専門家支援の活用、外部研修情報の提供を通して、職員の専門性や実践力の向上を図る。</p> <p>①夏季休業中に職員研修期間を設け、職員の専門性を高めるための研修会や学習会を実施する。</p> <p>②職員のニーズに応じた内容や今日的な課題を取り上げた学習会を随時計画、実施する。</p> <p>③校外で行われる研修会等を、電子掲示板や終礼、対象と思われる職員に回覧等で周知する。研修報告会や職員推薦の研修会等の紹介を行い、積極的な研修への参加を呼びかける。</p> <p>(3)児童生徒の教育環境の整備と職員の授業力向上のため、ICT機器及び教材教具の有効活用を積極的に推進する。</p> <p>①教科学習、訪問教育、遠隔授業等、様々な実践に役立つタブレット端末をはじめとするICT機器の校内研修会を段階的・継続的に開催する。</p> <p>②ICT機器に関する様々な実践に役立つ情報提供や、活用に関する支援に積極的に取り組む。</p> <p>③実践を基に、当校のニーズに応じて必要な通信環境や教材を整備していく。</p>
達成度の判断・判定 基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領を踏まえた授業づくりを通して、児童生徒の主体的に社会とかかわる力を育てることができたか。 ・職員のニーズに応じた校内研修会の実施や専門家支援の活用、外部研修情報の提供を通して、職員の専門性や実践力の向上を図ることができたか。 ・児童生徒の教育環境の整備と職員の授業力向上のため、ICT機器及び教材教具の有効活用を積極的に推進することができたか。
取組状況・実践内容 等	<p>(1)・主題研究の実践交流を各グループ単位で進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科部会を開催し、教科の専門性の向上や授業実践の交流など行った。 <p>(2)・授業交流をVTRやオンラインで行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季研修会の予定の再調整を行い、いくつかは実施することができた。 ・専門家支援の予定の再調整を行い、より効果的な活用について検討し、職員に周知した。 <p>(3)・情報機器の管理について、教務部との間の調整を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Web会議室の調整や、オンライン会議等への参加の際に使用する教室の調整を行っている。 ・タブレット端末やノートPC、PC教室の管理を行っている。 ・オンライン研修などの技術的サポートを行っている。 ・オンライン会議や研修のための機器の整備や、効果的な使用法についての工夫ができた。
評価の視点	評価
(1)新学習指導要領を踏まえた授業づくりを通して、児童生徒の主体的に社会とかかわる力を育てることができたか。	A (B) C D
(2)職員のニーズに応じた校内研修会の実施や専門家支援の活用、外部研修情報の提供を通して、職員の専門性や実践力の向上を図ることができたか。	A (B) C D
(3)児童生徒の教育環境の整備と職員の授業力向上のため、ICT機器及び教材教具の有効活用を積極的に推進する。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>(1)○制限がある中、各グループ単位での実践研究を進めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲今年度までに取り組んだ実践で、児童生徒の主体的に社会とかかわる力がどれだけ伸びたのかを必要がある。 ▲3年目の研究のまとめにむけて、取組の方向性を明確にする必要がある。 <p>(2)○夏季研修会をオンラインで実施することができた。</p>	A (B) C D

	<p>○専門家の授業支援について、体制を整えることができた。</p> <p>▲全体研修を精選して、職員ごとに必要な研修を選べるようにする必要がある。</p> <p>▲オンラインでの研修会や会議がよりスムーズに、かつ効果的に実施できるよう、機器の整備や操作法の工夫を行っていく必要がある。</p> <p>(3)○職員研修等を通じて、ICT機器の周知や活用方法の紹介ができた。</p> <p>○オンライン会議室を管理、管理することができた。</p> <p>▲ICT機器の管理について、担当できる職員を増やしていく必要がある。</p> <p>▲新しく導入されるi-Padの管理について、整備していく必要がある。</p>	
<p>来年度に向けての改善 方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究のまとめに向けて、研究チーフ会でチーフの意思統一を図り、研究の方向性と検討する視点を明確にして、各研究グループ内での授業実践交流の話し合いがより深まるようにする。 ・各分掌の計画している職員研修を職場全体の研修計画として集約し再構築して、各研修の位置付けを明確化する。そして、より効率的な研修が行えるように研修内容や日程の調整をする。 ・ICT機器に関する実践力を高めるために、短い研修会を職員会後に位置付けて、ICT機器の使い方の周知や活用事例の紹介を行う。 	